

### 13. HLH, HFSH, Radioimmunoassay kit の使用

#### —特に産婦人科領域における 測定値について—

松岡順之介, 荒木 省子, 黒川ひとみ  
(小倉記念病院 放射線科)  
松崎日出夫  
(同 産婦人科)

我々は、1972年2月以来、HLH, HFSH, RIA, kit  
を使用して、最近では autowell counter により現在ま  
で約210検体について測定を行なった。

今回は主として産婦人科臨床における成績について報  
告した。

- (1) 標準曲線作成のため測定値のばらつきは比較的小  
さい。
- (2) LH 値は Blasen mole, 妊娠初期にも高値を示し  
Freedmann 反応などより便利である。
- (3) 不妊について高低高 Gonadotropin 性無排卵症の  
鑑別に有意義である。

### 14. テトラゾルブによる甲状腺機能検査

佐分利淳二  
(熊大 放射線科)  
中村 郁夫  
(同 中央放射線部)

(1) トリオゾルブによる  $T_3$  値は正常者、甲状腺機能  
低下症及び甲状腺機能亢進症の重なるの範囲が比較的広  
いが、テトラゾルブによる  $T_4$  値では重なるの範囲が狭  
くなり、 $T_7$  値では、正常者と甲状腺機能亢進症に多少  
の重なり合いが認められたのみで、正常者と甲状腺機能

低下症とは与く分離できた。

(2) 正常者、甲状腺機能低下症及び甲状腺機能亢進症  
の  $T_3$  値と  $T_4$  値との関係を調べると、両者はおよそ正  
の相関を示した。また、逆に負の相関を示すものは  $T \cdot$   
 $B \cdot P$  に変動がある事を推測できる。

(3) 甲状腺機能亢進症患者に  $^{131}I$  経口治療を行ない、  
投与後の血清サイロキシンの減少を経日的に観察した結  
果、7例は投与後速やかに減少し、7日以後減少傾向は  
緩慢になってきたが、他の1例は、投与2日目より上昇  
傾向を示し、5日目が最高となり以後減少した。

この様に  $^{131}I$  投与後に於ける血清サクロキシンの減  
少を指標として甲状腺機能亢進症の治療過程が観察でき  
るものと思われる。

質問： 中川 昌壮(熊大 第3内科)  
治療のため投与した  $^{131}I$  の Conversion による影響  
をどの様に考慮して除外しておられますか。

答： 佐分利淳二(熊大 放射線科)  
現在、我々は、 $^{131}I$  投与後血清を長期冷凍保存したも  
のをウルタイプの新シチレーションカウンターにかけ  
 $^{131}I$  が残存してない事を確かめ測定している。

質問： 木下 博史(長大 放射線科)  
甲状腺機能亢進症に  $^{131}I$  治療された場合の血清  $T_4$  値  
変動を示された中で、1例のみ一過性上昇を示したも  
のがありましたが、特殊な疾患が変わった経過をとった等  
の事があればお教え下さい。

答： 佐分利淳二(熊大 放射線科)  
甲状腺機能亢進症があった他には余病はなかったと記  
憶している。

#### 特別講演

#### 腫瘍陽性スキャンの研究の現況

国立九州がんセンター  
前田 辰夫